

令和8年1月30日

白馬中学校 保護者の皆様

令和7年度 学校評価アンケート結果の報告

白馬中学校長 中村和彦

I. はじめに

令和7年度の学校評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。本報告書では、R6年度との比較を基軸に、各主体（生徒・保護者・職員・学校運営協議会）の数値と記述回答を分析し、令和7年度の成果と課題、および次年度への方向性を示します。

II. アンケート結果サマリーと R6 年度比較

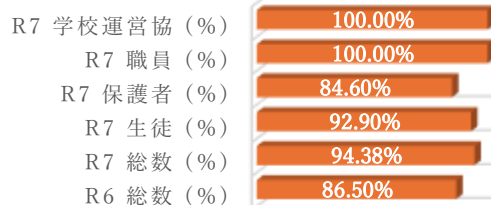
R6年度と比較可能な設問（1～7）のすべてで肯定率が向上しました。特に「あい TIME (+19.03pt)」をはじめ、3設問で12pt以上の大幅な伸びを記録し、特色ある教育活動が評価されています。一方で、「とくとく TIME」は他の項目に比べ生徒肯定率が62.7%と低く、活動の修正を検討していきます。

設問項目	R6 肯定率	R7 肯定率	変化
4. 地域について学ぶ活動（総合的な学習の時間）	83.10%	95.63%	+12.53pt
6. 学年チーム担任制	66.10%	80.03%	+13.93pt
7. 「あい TIME」の取組	74.90%	93.93%	+19.03pt

III. 設問ごとの結果と考察

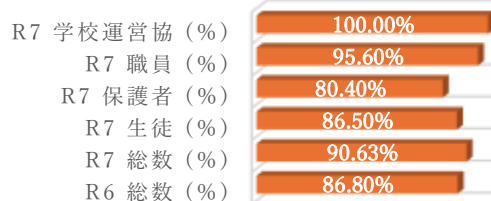
1. 教育ビジョン「愛のある学校」（設問1）

- 【成果】総数 94.38%：「先生方が親身になって子どもや親の声を聞いてくださる（保護者）」といった声に代表されるよう、教育ビジョン「愛のある学校」が着実に浸透しています。



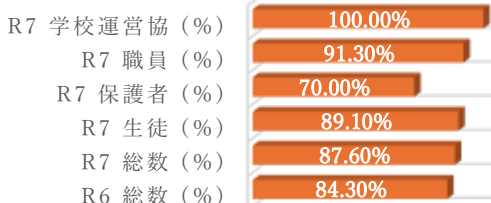
2. 教育目標「人生を楽しむ」（設問2）

- 【課題】保護者肯定率 80.40%：生徒は86%以上が「学校が楽しい」と回答していますが、保護者の肯定率は相対的に低くなっています。生徒が学校での「楽しさ」を家庭でも生き生きと語れるような、活動の質的向上と共有が求められます。



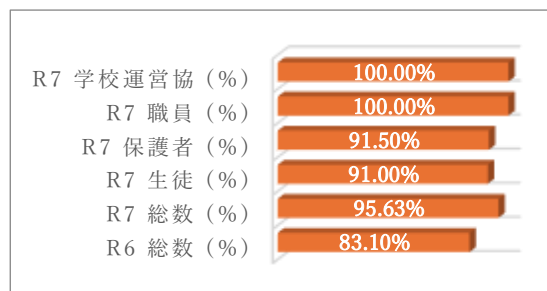
3. 授業の工夫とわかりやすさ（設問3）

- 【検討】職員肯定率 91.30%：職員の評価が高い一方、保護者からは「英語で話したり書いたりする機会を増やしてほしい」等の要望があります。生徒の「わかった」を増やすため、ICT活用や指導法を見直し、学びの環境をさらに改善する必要があります。



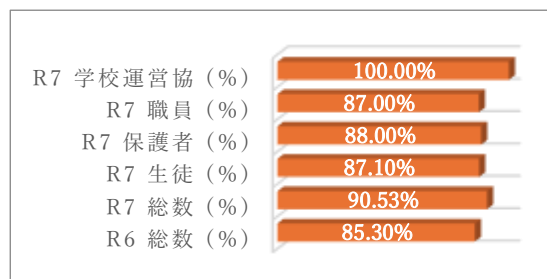
4. 地域での学び（設問4）

- 【成果】総数 95.63%：「ジュニアフォーラム等で学びを多くの人に見てもらえる機会ができて良かった（生徒）」との声があり、地域や防災をテーマにしたアウトプット重視の探究学習が高い評価に繋がりました。



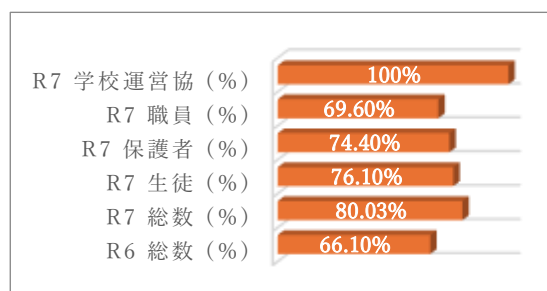
5. 生徒理解（設問5）

- 【成果】総数 90.53%：「どの先生にも相談しやすい環境（生徒）」との記述が多く、職員間の連携強化が生徒の安心感を生んでいます。



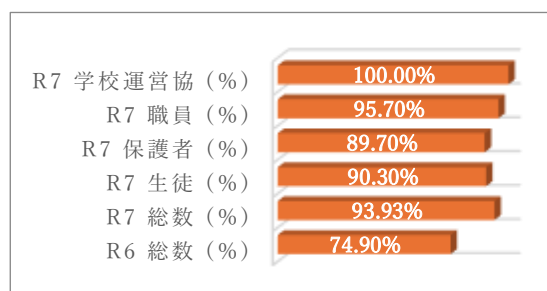
6. 学年チーム担任制（設問6）

- 【課題】保護者肯定率 74.40%：働き方改革への寄与は認められつつも、「特定の担任がいない不安」が一部にあります。学校運営協議会からも「メンター」設定の工夫が提言されています。



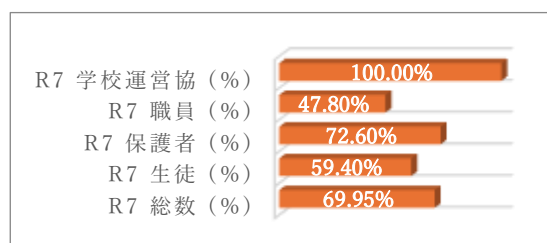
7. あい TIME（設問7）

- 【成果】総数 93.93%：後期選択制の導入により「興味があることができるので意識が変わった（生徒）」と、学びの幅を広げる機会として劇的に改善されました。



8. とくとか TIME（設問8）

- 【最重要課題】生徒肯定率 59.4%：全設問で最も課題があります。「内容を月ごとで変えてもいい（生徒）」などの声を受け、充実感のある内容への抜本的見直しや修正を検討していこうと思います。



9. 学校行事（設問9）

- 【極めて高い成果】総数 98.88%：「先生や友達との仲を強めることができた（生徒）」と、全主体から絶大な支持を得ている本校の大きな財産です。



IV. 令和7年度の成果、課題、今後の検討事項・方向性

1. 成果

項目	具体的な成果	根拠となる数値と記述
学校行事への極めて高い評価	学校行事が全ての主体から非常に高く評価され、教育効果と学校の一体感の醸成に成功している。	設問9 肯定率 98.88%。生徒の記述：「歴史を肌で感じ、先生や友達との仲を強めることができてよかった」
あいTIMEの改善	後期選択制の導入など、活動の多様化と質的向上が生徒の主体的な学びに繋がっており、満足度が飛躍的に向上した。	設問7 肯定率 93.93% (R6比 +19.03pt)。生徒の記述：「興味のあることができるので意識が変わった」
地域学習の質の向上	地域連携活動が生徒の主体的な探究と成果発表に結びつき、肯定的な評価が大幅に向上した。	設問4 肯定率 95.63% (R6比 +12.53pt)。生徒の記述：「自分の学びの成果を多くの人に見てもらえる機会ができて良かった」

2. 課題

項目	具体的な課題	根拠となる数値と記述
とくとくTIMEの質の改善	学校の特色ある教育活動に対する生徒の評価が著しく低く、内容が生徒の期待に応えられていない。	設問8 生徒肯定率 59.4%。生徒の記述：「月ごとで内容を変えてもいいと思った」「音声を聞き取ってくれない」
教育目標「人生を楽しむ」の共有	生徒自身は学校を楽しんでいるが、保護者の視点ではその実感が低く、家庭での捉え方に乖離がある。	設問2 保護者肯定率 80.40% (生徒肯定率 86.5%との差が大きい)。
チーム担任制での信頼構築	制度が職員の働き方改善に寄与する一方、保護者や一部生徒に「特定の相談相手がない」不安が残っている。	設問6 保護者肯定率 74.40%。運営協の記述：「継続的に関わる『メンター』を設定する等の工夫を」

3. 今後の主な検討事項と方向性（令和8年度に向けて）

主な検討事項	実施内容
① とくとか TIME の抜本的再設計	生徒評価 59.4%を最重要課題とし、活動の目的の明確化と、アプリの使用に関わる指導支援の方法の充実を図る。また、清掃活動の取組についても見直しをしたい。
② 教育目標「人生を楽しむ」の深化	「充実感や楽しさ」を感じることができ学習や活動を生徒と共に作り上げる。また、その様子を家庭でも語れるよう、双方向の振り返り共有や、生徒が主役となる場面をさらに創出する。
③ チーム担任制の運用の高度化	運営協議会の提言を採用し、「継続的に責任を持つ職員（メンター）」を明確化することなども検討。複数担任の利点を活かしつつ「個の安心感」を担保する。担任のローテーションの方法や期間についても柔軟に検討・検証をしていく。
④ 授業の工夫とわかりやすさの追求	設問3の分析に基づき、職員の授業改善意欲（職員肯定率 91.3%）を生徒の「わかった」に直結させる。具体的には、基礎基本の定着の見直し、ICT活用や授業形態の見直しなど「個別最適な学び」の視点を取り入れ、生徒一人ひとりの理解度に応じた「わかりやすい授業」を研究・実践する。

【補足】設問3（授業の工夫とわかりやすさ）に基づく具体的な方向性

保護者からの記述回答「英語表現を使って話したり書いたりする機会を増やしてほしい」や、職員の高い自己評価を踏まえ、令和8年度は以下の様な点を踏まえて重点決めだし、授業改善を図ります。

- 「わかる」授業の可視化: 生徒が自分の理解度を確認しながら進められる「学習のゴール」の提示と振り返りの徹底。
- 個別対応の充実: 一斉指導の中でも、ICT 端末を活用した個別ドリルや、つまづきに応じた巡回指導を強化し、「わからない」を置き去りにしない体制。
- アウトプット機会の創出: 知識の習得に留まらず、地域学習（設問4）の成果で見られたような「学んだことを表現・活用する場」を各教科の授業内でも意図的に設定する。
など

学校評価アンケートからの報告は以上となります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。